

圓福寺報

再建の兆し

圓福寺報 第七十号
 平成二十九年一月一日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一
<http://www.chiba-enpukuji.com>
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com



毎年新年に玄関に飾っていた、象靴老師の「達磨図」の掛け軸も修復を終えて、再び玄関に飾られるのを待っています。かろうじて、右側に「天保七元旦」という字が残りました。下が焼損直後の写真。



年頭法話	目次	頁
「無老死」		2
「僧堂で何してる？」		6
——修行道場の生活		
『はじめての 四国あるき遍路の旅』		8
市原 宮本和敏さん		
宮城の海で思ったこと (岫落・岩手役員研修にて)		12
「禅とゴルフ」		13
西小中台 矢野 弘明さん		
第二十四回圓福寺寺子屋		16
「禅童会」感想文		
「禅童会に思う事」		18
鎌ヶ谷 高橋 敏勝さん		
六川花園幼稚園 園だよりから		20
「まねぶ子どもたち」		
平成二十九年年忌表		21
土曜会・写経会		22
平成二十八年日録抄		22
三巡目第二回四国遍路のご案内		22
平成二十九年行事予定		23
花園会新年会のご案内		24

無

む

ろ

老

う

死

し



子死孫死」と六文字を書いたのだそうです。ご重役は「めでたい

正月早々、老だとか死だとか縁起でもないと思わないでください。一休さんで親しまれる一休禅師は、「門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし。」と言いましたし、博多聖福寺に住職した仙厓禅師には次のような逸話が伝えられています。仙厓さんののもとに、黒田藩のご重役が訪ねてこられて、何かめでたい語を書いていただきたいと頼まれたそうです。すると、仙厓さんは「父死

語とお願いしたのに、死を並べて書いてくださるとは縁起でもないではありませんか。」すると仙厓さんが言いました。「孫死して子に先立たず、子死して父に先立たず、家に若死にがなほいほいめでたいことが世にあるか。」と。仙厓さんの時代は、すでに江戸も半ば過ぎで、いくさなどがない時代でした。しかし、武家にとっては戦がつきもので、戦場には若者が駆り出され、子に先立たれる武家は少なくなくなると想像できます。いくさがなく、平穏な時代であればこそ、年寄りから順番に亡くなってしまうのだと言いたかったのかもかもしれません。



一休さんや仙厓さんにあやかって奇をてらおうと思ったわけではありませんが、この「無老死」は、写経をされる方なら気づくかもしれません。般若心経の中のことばです。毎月、スマートフォンという施設で写経をさせていたというお話が、多般般若心経のお話をさせていただきます。あらためて般若心経をお経かとお読みすると、なんと親切なお経かと気が付きます。一番最初に、主題となる「五蘊皆空」(ごおんかいくう)を打ち出して、それが分かりやすいようにとたとえをたくさん並べて、たくさんの人に理解できるようにと説いているからです。そのたとえの一つとして「老死」を持ち出してきています。なぜかという、歳をとる

につれ、これが私たちにとって一番の悩みの種、「苦」だからです。

般若心経の逆の構成で、経文をさかのぼって見てみることにしましょう。まず一番気になる「老死」に注目します。最近、すぐ目が疲れるんだとか、ちよつとした段差につまづくことがよくあるなあとか、単語が出てこない時がよくあるなあとか、お医者さんに行けば加齢のせいですとしか言ってくれないしなあと、同じ年代の人が集まるとすぐそんな話になります。また、同級会をやると年々集まる人数が減ってねえとか、おれが死んだときにみんなに迷惑かけたくないなあとか、おれの葬式は家族葬でいいからなとか、亡くなった後のことを心配される話も耳にします。ですから、般若心経の中でも、「老死」なんていう字には目が行きます。ところが、その前に「無」と

あって、「老死が無い」というのですから、これもおやつとか、えつと思えます。老いも死もないってどういうことだろう。健康長寿の秘訣でも教えてくれるのかと気になります。答えは般若心経の中にあるはずで「無老死」にはどうしたらなれるかと、少し前に戻ると「是故空中」(ぜーこーくうちゅう)とあります。「この故に空(くう)の中には」と読んで、だから「空」の中には、という意味になります。ようやく、『空』であれば、『無老死』である。」と整理できました。なんだか、言葉遊びのようで申し訳ありませんでしたが、私たちが抱く一番の「苦」である「老死」も、「空」の心を持つことで「苦」でなくなるというのです。



「老死」という大問題でなくとも、私たちが困ったことや悩みがあったりすると、何かにすがろうとか、誰かに相談してみようとか思います。

江戸時代前期に活躍し、のちに妙心寺の住職も務められた盤珪(ばんけい)禅師という方がいらっしやいます。ある時、一人の僧が盤珪禅師のところへ来て「私は短気で師匠にも意見をされておりますがなかなか直りません。これはいかんと思ひ努力はしておるのですが生まれつきで何ともなりません。どうすれば直りませうか。」と質問をいたしました。

盤珪禅師いわく「あなたは面白いものをもって生まれついたものだ。それなら今ここに短気とやらを出しなさい。直してしんぜよう。」

なにやら、一休さんの虎退治の話を連想するようなお話で

す。
僧いわく「今はございませ
ん。ひよつとした拍子に短気が
出ます。」

禅師いわく「それなら短気は
生まれつき持ち合わせているも
のではない。何かの拍子に、お
前さんが出しているもので、親
がそんなものを生みつけたりせ
んわ。」
と諭されたそうです。

短気に悩む僧に限らず、私た
ちも、生まれつきだからとあき
らめてみたり、何かの拍子とか
誰かのせいとかいって、周りの
せいにしたがるが多くありま
す。思い込みや先入観、プラ
イドやとらわれなどもありま
す。それらが私たちを「空」で
はない状態にしてしまいます。
そこで、盤珪禅師がおっしゃっ
た「親がそんなものを生みつけ
たりせん」状態のことが「空」
であると言えます。

現代の写経の火付け役となっ
た薬師寺貫主、高田好胤さんの

言葉をお借りすれば、
「とらわれないところ
かたよらないところ
こだわらないところ」
こそが、「空」のころ、
「空」の状態です。

圓福寺で使っている般若心経
の写経用紙には、お経が薄く印
刷されています。写経とはい
え、薄く印刷してある字を毛筆
や筆ペンでなぞっていきます。
気を付けていたただくのは、薄く
印刷してある字から墨がはみ出
ないようにすることです。自分
の思いこんだ字の形や、とらわ
れた書き癖をなくして、おあげ
さに言えば「空」になるため



す。だいたい
書きはじめに
は注意しては
み出さないよ
うにします
が、少しはみ
出した字があ
ると、なし崩

しにはみ出し始め、次第に雑に
書くようになるのが私たちです
から、なかなか「空」のころ
になるのは難しいものです。

先日、いつものように写経を
していて、「無老死」のところ
に来て、ふと思いました。

いまこの部屋で写経をしてい
る人たちは、写経の最後に〇〇
の為と書きますが、その願いの
ために写経をされます。もちろ
ん、老死の苦しみや悩みから解
放されたい、その苦しみから逃
れたいと思って写経を始められ
る方もたくさんいらっしゃる
と思います。

でも、今、写経をしていると
きに、果たして「老死」のこ
に苦しみながら書いている人は
いるだろうか、物音ひとつしな
い部屋の中で「老死」の苦しみ
に悶えながら写経をしている人
は、一人としていないのではな
いだろうかと思ったたら、これが
「無老死」ということかと気づ
きました。般若心経の最初の方



「切苦厄」、
「無老死」

に、「照見五蘊皆空」というところがあって、光がパツとつくように気づく、照見というように「空」はこれじゃないかと気づいた気がしました。それに続く経文は「度一切苦厄」と、すべての苦しみから救われるというではありませんか、「無老死」なのです。

すると、写経することで何か得られるとか、願いがかなうとか思っています、すでに写経をすることで得られているんだ、ただ気付けていないだけじゃないかと。

同じ禅宗でも、曹洞宗は「只管打坐」といって、ひたすら坐禅すればいいのだと言います。盤珪禅師の「親は余計なものを生みつけたりしていない」ということに気づけば、ひたすら坐

禅すること

で、「度一

切苦厄」、

「無老死」

なのです。

四国遍路の起源は、乞食坊主姿のお大師さんに気づかずにながしろにしたことに対して、なんとか一目お会いしてお詫びしたいとの思いから始まったとも伝えられます。お大師さんと親しまれています。お大師さん「無老死」と置き換えてみたらどうでしょうか。老いや死の苦しみや悩みから解放されたいと、無老死を探し求めて歩きまわす。歩いていても無老死に出会うことがありません。あきらめかけたときに、「同行二人」という言葉で、自分はいつも無老死のところで歩いているじゃないか、無老死の中で生きていると気付くのです。

盤珪禅師は、「親が生みつけたものではない」ということを「不生」（ふしよう）と言、「一切のことは不生で整う。」と説かれました。「おさなごの



しだいしだいに知恵づきて 仏に遠くなるぞ悲しき」と詠われているように、

自分の悩み苦しみの原因が、ひよっとした拍子に出す短気だったたり、人のせいにするずるさだったり、思い込みやプライドではないのかと顧みることで、「無老死」と、苦しみをなく生きて行けるのではないでしようか。

最後に、なぜ親は余計なものを生みつけなかったのかを知る詩をご紹介します。終わりにしたいと思いません。

「子どもを不幸にする一番確実な方法は、いつでも、なんでも手に入れられるようにしてやる事である。」（ジャン・ジャック・ルソー）

僧堂で何してる？ ——修行道場の生活

入門式

前号で、修行道場の入門試験を
ご紹介しましたが、その後どん
な修行が待ち構えているのか、
『雲水日記』よりの抜粋を継続し
てご紹介します。

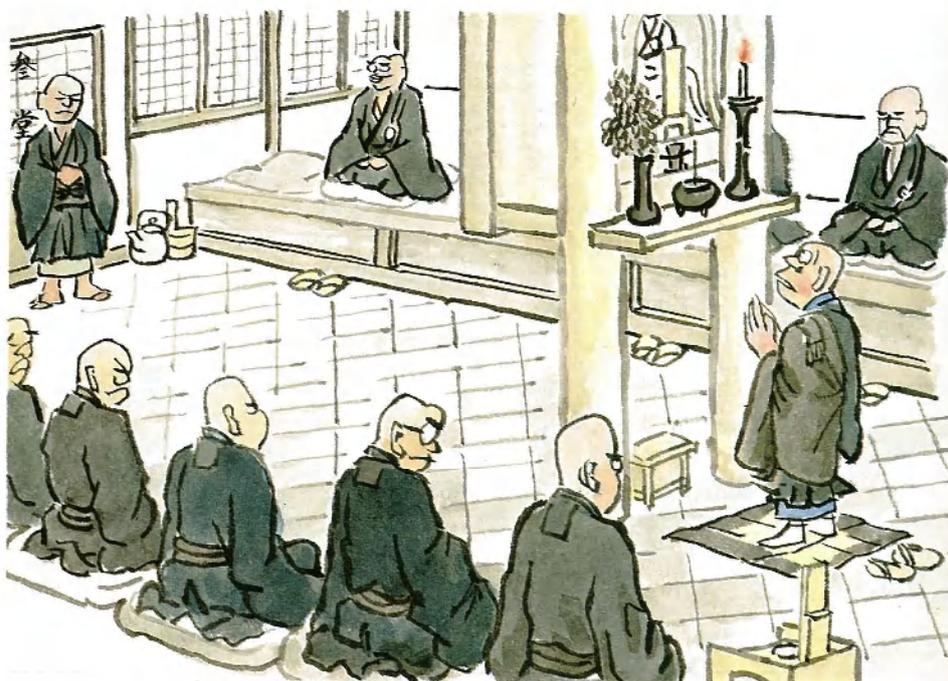
タイトルの「僧堂で何してる？」
は、親しい人が圓福寺の弟子のこ
とを心配して、よく聞いてくるフ
レーズからいただきました。

庭詰、且過詰を終えて、入門
を許され、いよいよ禅堂に自分
の場所を与えられます。

自己紹介するわけでも、歓迎
の言葉をもらおうわけでもありま
せん。係りの雲水の大きな一声
ですべてが終わります。

「シントー、サンドロー。」

活字にすればこれだけです
が、これが先輩たちが居並ぶ堂
内に響き渡ります。まるで閻魔
様のまえに突き出されたような
気持になります。



参
堂

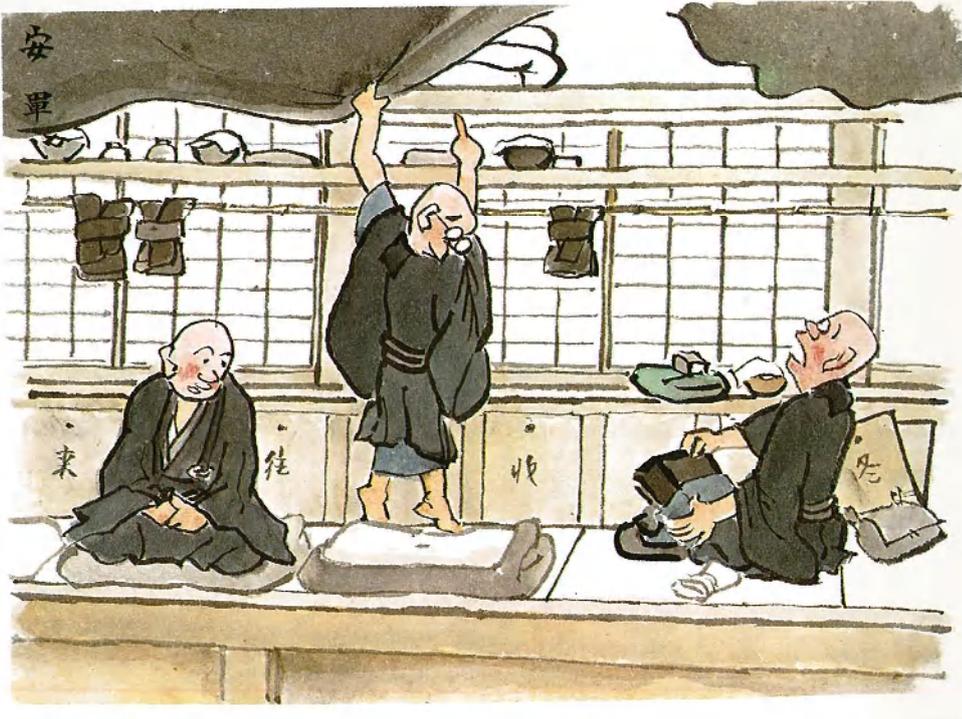
翌日の朝食後、いよいよ禅堂に移された。庫
裡から廊下伝いの奥まったところに建つ別棟で、
中は一面の敷瓦、正面の厨子に文殊菩薩（聖
僧）が祀られ、両側が一段高くなって畳敷。そ
してそこには、先輩たちが全員ズラリと塑像の
ように坐っている。

案内の侍者（聖僧に仕え禅堂の世話をする役）
の指示に従って、白足袋、袈裟を着け、全身を
緊張の固まりにして、まず、聖僧さまに線香
を供え坐具を展げて三拝し、修行無事を祈る。
つぎに直日という禅堂取締りの前に行き、「今
後の教導をよろしく」という意味の低頭。そう
して旅荷の置かれた自席に導かれてまさに着座
しようとしたその時に、「新到、参堂！」と侍
者が大声に呼ばわった。すると、突兀と坐って
いる先輩たちはうやうやしくいっせいに低頭し
たものである。これで仲間入りだ。愚にもつか
ぬ履歴などは一言半句の紹介もない。まさに簡
潔にして厳肅、こんなすがすがしい入学式や入
社式が他にあるだろうか。

■専門用語解説

【單】(たん)

禅堂の中の、雲水が与えられる場所のこと。「起きて半畳、寝て一畳」と言われ、坐禅をするのも、寝るのもこの空間だけで行われます。



安あん
單たん

仲間入り

ともかく難関を抜けて落ちつくべきところに落ちついた。その自席は堂内片側の直日単という、畳が十四枚並んだ末席の一畳。この一枚が雲水の天地であり、これからのわが生活の場だ。天井からは各自の単標(名札)がさがり、黒幕で遮蔽した蒲団棚、その下に持鉢、経本を置く小棚、袈裟を掛ける細竹が一本横に渡され、座の後方は日用品を収める単箱(小型の押入れ)といった簡易住居。

隣席の先輩に教えられ、袈裟文庫を解いてほんのわずかの旅荷を所定の場所にしまいこむ。いったい、雲水の持物は、行雲流水の行脚の自由さと、限らない人間の所有欲を捨てる建前から極度に制限されていて、まったくさっぱりしたものだ。

新入りの彼にはすでに三名の先客があった。同じ制問中に掛錫した新到仲間(同参、同夏)といつて、同志愛で結びつき、なにかにつけて互いに励まし助け合い、もつとも気心の知れた道友となつてゆく。

合理的宿舎「禅堂」

禅堂は、左右の単に分かれていて、それぞれ畳一帖敷かれ、畳の前面に太いかまちがあります。ここを単縁(たんぶち)といつて、飯台にもなるところです。そのため、単縁に足をかけたり、腰掛けたりすることはご法度です。単に置いてある、坐禅用の単布団に坐る時には、器械体操のあん馬のように腕を着いて体を持ち上げなければなりませんでした。

毎朝午前三時に起こされるときには、入り口の障子が勢いよく左右に開け放たれ、単縁にあたった振動が雲水の頭に伝わる仕組みになつていて、眠かるうがなんだろうが強制的に起こされるのです。この禅堂の作りを模して、屯田兵や特攻隊員の宿舎が作られたと言われています。単の後方には障子戸がありますが、坐禅の時には常に開け放たれていて、冬に堂内はまだ雪が舞い込んでくることもありました。

五番でお参りするお遍路さん。まだ歩き始めたばかりで、お経もおぼつかない。



3巡目

四国あるき遍路の旅

第一回

平成28年11月17日(木)

～20日(日)

三巡目の四国あるき遍路がはじまりました。
 平成27年2月に二巡目が結願して、秋から三巡目！と意気込んでいたのですが、少々お休みをいただき、一年半のブランクができてしまいました。
 昔から、「二度あることは三度ある。」とか「三度目の正直」など、「三」にまつわることわざがありますが、さて三巡目の四国あるき遍路は、どんな修行の旅になるでしょうか。
 ともかく、歩き慣れているという慢心や過信を持たず、謙虚なところで歩こうと思います。「三人寄れば文殊の知恵」といいますが、逆に「船頭多くして舟山に上る。」ともいいますから・・・。

期日	曜日	歩いた足跡				食事・宿泊	
11月17日	木	21:20発 東京駅鍛冶橋駐車場バス停 下り2便(直行徳島行き) 【高速バス】 ※バス停まで、各自でご集合ください。					
1 11月18日	金	6:15着 徳島駅前	一徒歩一 約0.1km	コンビニで朝食を購入し、電車待ち時間に駅の待合室で朝食を済ませる。	6:40発 徳島駅	《JR徳島線》	【歩いた距離】約18.4km 朝食は、コンビニで各自購入して、駅の待合室でいただく。 昼食も、大日寺に行く途中のコンビニで、各自購入し、五百羅漢堂の庭で食べました。 宿泊：十楽寺宿坊 土成町高尾法教田58 088-695-2150
		7:01着 板東駅	一徒歩一 約0.8km	1番 霊山寺	8:00発 一徒歩一 約1.4km	8:13着 2番 極楽寺	
		8:45発 2番 極楽寺	一徒歩一 約2.6km	3番 金泉寺	9:15着 一徒歩一 約5km	9:45発 コンビニで昼食を購入。	
		10:57着 4番 大日寺	一徒歩一 約1.8km	5番 羅漢堂	11:30発 一徒歩一 約5.3km	11:48着 12:40発 お参り後に、境内で昼食。	
		12:43着 5番 地藏寺	一徒歩一 約1.2km	6番 安楽寺	13:05発 一徒歩一 約4.2km	14:20着 14:50発	
		15:05着 7番 十楽寺	一徒歩一	8番 熊谷寺	15:25発 【タクシー】 約4.2km	15:31着 15:51発	
		16:00着 十楽寺帰着、投宿					

今回の旅の記録です。夜行バスで徳島に向かいました。

『はじめての』

四国あるき遍路の旅』

市原市 宮本和敏

——「四国にお参りしておいで。」和歌山に帰省の度に、信心深かった母が私に言い続けました。徳島から帰宅して、三年前に他界した母に四国遍路を始めたことを報告しました。数年後、無事満願の報告が出来れば望外の喜びとなるでしょう。

学生時代に京都までの夜行バスを何度か利用したことがあります。当時は二人席のごく普通の乗合いバスのようにでした。この度徳島までの高速バスには、リクライニング付きの一人席、シェードによる個室化等、その進化ぶりに驚きました。手首に巻いたヘルスケアバンドの計測記録によると旅程中三泊のうち一番よく眠っていたのはバスの中ででした。ところが宿坊一泊目

の夕食時に、今後の四国行き高速バス利用は、同行の皆さんに敢えなく却下されました。

バスが到着した金曜日早朝の徳島駅は決して寒くなく、少しずつ通勤や通学の人々が増えていく中、近くのコンビニで調達した朝食を済ませ、一番さんに向かいました。門前の店で多少の遍路グッズを買い揃えて、あるき遍路の体裁をある程度整えたつもりでいよいよ始まりです。

午前中には、退職記念の旅をしている関東からのご夫婦が、急遽圓福寺のあるき遍路に参加されるハプニングがあり、同行二人に賑やかさが加わりました。

初日は九カ所のお寺を巡っただけで、それほど長距離を一度に歩くことはありませんでした。それでも六番安楽寺に着く頃には足裏にマメが出来た様子でした。それを庇うように不自然な歩きをしたのでしよう。左

足の膝辺りと右足の大腿部の筋肉に痛みを感じるようになりました。

確か安楽寺だったと思います。一人の外国人の方がお灯明を灯して、お線香をあげ、ほとんど完璧なまでにお作法に従ってお参りしておいでになるのを感心しながら拝見していました。縁あって、この方とは七番十楽寺の宿坊で一緒に過ごしました。夕食時に再び顔を合わすこととなり、当同行の社交的な方が圓福寺の夕食会の中にこの方を一杯の生ビールで引込んでしまわれました。伺えば、カナダからお見えの七十四歳で、アメリカ人のご友人の勧めであるき遍路を始められたとのこと。特



五番奥ノ院玄閣の風凰。

別宗教心があったので、無さそうに、旅の楽しみ方のひとつとして歩いておられる由。それにしても日本語でのコミュニケーションがたいそうご不自由なのに、お一人で歩いておられる勇氣に大いに感服する次第です。夕食後も、何人かはロビーでカナダ人を囲んで談笑されていました。彼にとっても、期せずして良い思い出になることを祈りたく思いました。

宿坊は全くのビジネスホテル風のツインの部屋でした。翌早朝目覚めたときには、同室の方ははお出掛けされていました。帰ってこられてから、無呼吸症候群の話がされましたので、私のうるさい鼾で十分にお休みなれなかつたのかと申し訳なく思いました。

朝の勤行をして、朝食後ご就職のお見送りを受けて出発する時には小雨が降っていました。雨具を纏って、きのうの筋肉痛を引っ張りながらの出発になり

ました。心配した雨は、前日最後にお参りした熊谷寺の古い山門が拝める辺りまで来た頃には上がりました。ところが、今度は気温が上がりがり始め、同行のうちでは半袖一枚で歩く方も出る始末。おそらく二十度を超していたことでしょう。

阿波川島駅で一列車乗り遅れたため、当日最後の大日寺まで歩いて行くと暗くなりそうなので、予定を変えて別格二番童学寺からタクシーで建治寺（こんにじ）に参拝。急な上り坂を左右に激しく揺られながら到着しました。標高三一〇mにある寺の展望台から、鮎喰川、その向こうに眉山を望む眺望に、しばし疲れを忘れましました。再びタクシーで山を下り、当日最後の一番大日寺まで二kmほどの距離を歩いたのは、足マメ、筋肉痛を抱えては多少負担でした。

大日寺の宿坊は前日のビジネスホテルとは全く異なり、大部屋でした。部屋に入ってから恐

る恐る靴下を脱いでみると幸いにしで足のマメはまだ潰れていません。ただ歩き方が痛々しく見えただけでしょう、同行の先輩の皆さんがたいそう心配してくださいました。マメを保護するサージカルフィルムや筋肉痛の貼り薬を頂戴し、いっぺんに痛さを忘れましました。たいそう感謝した次第です。

夕食後大部屋に場所を移して、焼酎片手に賑やかな談笑が続きます。本日二十km余りを踏破された方々にはとても見えないタフぶりでした。

旅程最終日の朝

2	11月19日	土	7:50発	一徒歩一	9:10着	9:35発	一徒歩一	10:30着	【歩いた距離】約18.5km 昼食は、「川内橋本 川島店」から「うどん手八幡」に変更 宿泊：大日寺宿坊 徳島市一宮町西町376 088-644-0069
			上楽寺	約4.8km	9番法輪寺		約3.8km	10番切幡寺	
			11:00発	一徒歩一	11:35着	12:10発	13:24着	阿波川島駅	
			10番切幡寺	約1.8km	「うどん亭八幡」(屋食)		約4.4km	別格2番童学寺	
			13:48発	<<JR徳島線>>	14:06着	14:06発	14:33着	入田へんろ小屋	
			阿波川島駅	普通列車	下浦駅	建治寺	約1.6km	入田へんろ小屋	
14:52発	【タクシー】	15:09着	15:30発	【タクシー】	15:36着				
別格2番童学寺		16:17着	この日は大日寺宿坊に泊まりま						
	一徒歩一	約2.1km	13番大日寺						

二日目の記録です。

全員で記念撮影です。参加十三名でした。五番地藏寺にて。



勤行では、韓国出身のご自身が、先代ご住職の急逝後妻としての重責を負ってご苦勞の末ご住職になられたお話をされました。出発後、長閑な田園風景を歩いていきますと、ある方が「同行二人」と書かれた白衣を宿坊に置いたままにされた由。「お大師さんを置いてきぼりにした。」との思いからか、タクシーで宿坊まで取りに戻られるハプニングもありました。道すがら見る大きな河川から

小さな水路に至るまで流れる水がきれいなのが印象的でした。また大きな川ではあちらこちらで沈下橋（地元では潜水橋と呼ぶのが一般的らしい）を見ました。車が行き来する潜水橋のうえで、まだ湯気が立っているお饅頭を大変美味しく頂きました。元氣を取り戻して最後の十七番井戸寺まで歩き通しました。昼食後は眉山西側を通る地藏越山道を登って下り、やっとの思いでバス停にたどり着きました。バスでの徳島駅までは、歩いたことに比べるとわずかな時間だったことか・・・。

旅程中、先達をお務めくださったご住職は旅の最後まで全員を無事にお導きくださいました。先ずは、感謝の念に堪えません。巡礼中、現地では地元の方々に声を掛けて頂き、お励ましくいただきました。道中あちらこち

らの遍路小屋にはみかんや柿のお接待、またポットにお湯をご準備くださいりコーヒードーもあ息入れたこともありません。有り難く思いました。ご同行の方には、礼所のお寺に着く度に、皆さんの納経帳を急ぎ集めて納経所に駆け込むのを執ってくださいました方、皆が車座に座った折には雰囲気盛り上げてくださる方が必ず居られます。先輩巡礼者の方からは適宜アドバイスをお陰様で皆さんに支えられた旅でした。

3	11月20日	日	6:00~	6:55	8:00発	一徒歩一	8:30着	9:53発	【歩いた距離】約15.3km 昼食は、上船橋近くの「うどんの丸とく」
			朝の勤行	朝食	13番大日寺	約2.3km	14番常楽寺		
			一徒歩一	9:06着	9:23発	一徒歩一	9:50着	10:10発	
			約0.9km	15番国分寺	約1.8km	16番観音寺			
			一徒歩一	10:46着	11:15発	一徒歩一	11:55着	12:55発	
			約2.8km	17番井戸寺	約2.5km	「うどんの丸とく」(昼食)			
			一徒歩一	14:40着	15:04発	【徳島バス】	15:23着	16:15発	
			約5.0km	園瀬橋バス停	しらさぎ台線	徳島駅前			
【空港リムジン】	16:43着	18:05発	JAL463便	19:20着					
		徳島空港		羽田空港					

三日目の記録です。

宮城の海で思ったこと

（宮城・岩手役員研修にて）

十一月の部内役員研修に続いて、十二月初めに、松島瑞巖寺をはじめ、南三陸から岩手へと研修旅行に行ってみてまいりました。

松島瑞巖寺は、言わずと知れた伊達政宗ゆかりの禅寺ですが、同じ臨済宗妙心寺派のお寺で、かつては圓福寺と称していました。今春、七年にわたる大改修を終えて、本堂の公開を再開いたしました。その瑞巖寺の参拝と合わせて、春の法話会でお話をされた陸前



瑞巖寺の本堂前にて。

高田の慈恩寺さんに、答礼を兼ねてお伺いすることになったのでした。子ども、の頃に、東北の妙心寺派寺院の子を

集めての坐禅会で、何回か泊った瑞巖寺は、実家のお寺の本寺ということもあり、親しみを持っておりました。今回、詳しいご説明をしていただきながらお参りさせていただいて、その壮麗かつ豪壮さに、親しみの思いは畏敬にかわりました。

瑞巖寺での坐禅会では、海水浴の時間もありました。渡波（わたのは）海岸という海に連れて行ってもらって、お寺がやっている保育園の一室を借りて着替えて、水遊びに興じたことを思い出しました。そのすぐそばをレンタカーで通ったのですが、なにもありませんでした。さらに北上して、被災地ニューズでよく取り上げられた南三陸は、開発工事の現場のようで、はじめて訪れる人には広大な工事現場といった感だと思えます。

トイレ休憩で立ち寄った道の駅は、建物の裏手に回るとわずかに鉄道の線路が残っています。よく見れば、私が立っているところはかつてのプラットフォームでした。案内板を見て驚きまし

た。駅に隣接する大谷（おおや）海岸は、私（が）子ども会（の）行事（の）で、生まれて初めて連れてきてもらった海だったからです。砂浜伝いに巨大な土嚢が並べられて、海水浴場の面影は消えています。

三越のライ

オンの台座の大理石を切り出したという大理石海岸から、慈恩寺さんのある岬を見れば、群青の海を抱き込んだりアス式海岸がかつてのままきれいでしたが、陸前高田の松原が消えてなくなっていたのには言葉もありません。行く先々で見る、津波到達の高さを示す案内板には、10m以上の表記ばかりです。それから、それが現実なのだとは思っても、の信じられない光景でした。しかし、松島のカキ小屋のおばさんをはじめ、たくましく復興に向かっていく姿に、圓福寺再建への勇気をもたらした研修となりました。

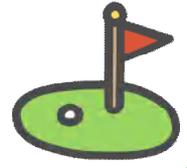


遠く冠雪の奥羽山脈と眼下に北上川を望む。

第41回花園会ゴルフ大会

10月18日 於：長南カントリークラブ

	お名前	グロス	ハンディ	ネット
優勝	矢野 弘明	89	15.6	73.4
準優勝	小山 稔	99	25.2	73.8
3位	大村 政博	97	22.8	74.2
3位	宮田 宗格	97	22.8	74.2
5位	矢野 剛三	94	19.2	74.8



第四十一回の大会は、十月十八日に、長南CCで開催されました。新ベリア方式で、十一名が競いました。成績は表の通りです。いつも通り、参加費と罰金の中から、日本赤十字社に災害義援金を贈らせていただきました。

「禅とゴルフ」(その1)

優勝スピーチに代えて

西小中台 矢野弘明さん

禅とは広辞苑の辞書を引くと「心を安定・統一させることによつて宗教的叡知に達しようとする修行法。禅定。六波羅蜜の第五」と書いてある。六波羅蜜とは「菩薩が修する六種の基本的な修行項目。布施、持戒、

忍辱、精進、禅定、智慧。六度。六波。ろっぱらみつ。」となつてゐる。心を安定、統一させるぐらいは何となくわかるが、その先は？。何となく理解しているような気がするが、正確な答えは出てこない。

ゴルフは規定打数が七十二となつてゐる。ハンデは三十六まで、足すと百八つになる。除夜の鐘も百八つ「百八の煩惱」「心身を悩ませる妄念」これをクラブで邪念を振り払つて大願成就、となる。ゴルフには禅の道に通じるものが潜んでゐるようだ。

約三十年頃前、座禅は一度だけ経験させていただいた。朝早く本堂の横の畳の上に四人「ゴルフ仲間」が互いに向き合つて座し、身体がゆれ姿勢が悪くなると、和尚が後ろから警戒で気を引き締める為に肩を叩いてくれる。はつとして姿勢を取り戻し、眠気を振り払う。そ

の日のゴルフの成績は？勿論良かったはずである。

圓福寺花園会でも、二十年前頃から年に二回ゴルフコンペが開催されてゐる。檀家である会員は精進の為に参加する。ゴルフを通じて禅に触れ合う心を会得しようとするが、私などはスタートすると、禅どころではなくバタバタと彷徨いはじめる。コースで一日のスイングの時間は素振りを入れても十五分ぐらい、ああでもないこうでもないと思つ時間がほとんどで、

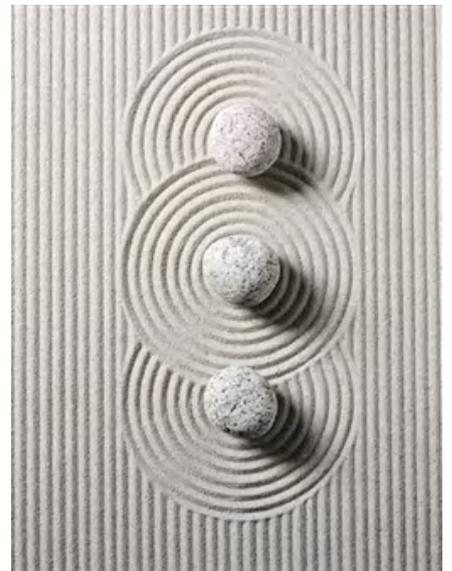




コアはドンド
ン悪くなる。
禅の心はとっ
くに何処かに
遊びにゆき、
上がってみれ

煩惱との戦いである。仏様、神様にお願いをしても、神仏も皆から頼まれるのでほとほと困っているようだ。お願いするのでなく会得しなければならぬのに。

小学校の遠足よろしく、そろそろと、途切れ々に繋がって行く。前の組でまごまごして時間がかかると後ろの生徒達はその分遅れる。ひどい時は何組も待たされて、いらいらしながら待つ。いざ自分が打つと焦ってスイングが早くなり、球は云う事を聞いてくれない。スイングは自分がしたのだから自分を責めればよいのだけれども、遅れた組のせいにしたくなる。いらいらするからス



ば大叩きをしてシヨンボリ。

たまには禅の心が良いスコアで回る時がある。他所のコンペに呼ばれ同伴者もあまり良く知らない。迷惑をかけてはと無理をせず、ジツと我慢、人に迷惑をかけないように思いながら回ると、思いも寄らない良いスコアがでる。これぞ禅の心ではないかと思われる。如来様か菩薩様かが、たまにはと面倒を観てくれたのだと思う。

長いことゴルフをしていると、会社の後輩や地元の飲み友達から教えてくれと声がかか

る。本でしか知識がなく、プロに習ったのは一度もなく素振りだけが頼りのゴルフアーだからどうしたものかと思ひ悩む。会社の屋上が練習所「實は私の提案で社屋立て直しのさいに建設」があり、昼休や休日に教え入れ、叩きつけるのを極力さけ、スムーズなスイングを主に練習。

二〜三カ月してコースに、当人は緊張のあまり空振り、ダフリ、スライス、フック、引っかけ、押し出し、チョロ等。私も始めての時は同じようなもので、同伴した先輩が後ろを見ながら球を持って次の地点まで歩こうとアドバイス。私はなんでと？。先輩いわくゴルフは一人で球を打つが、時間が掛かるような後続に迷惑



速足で、「芝を痛めないように」降りたら、小走りにカート
の所に行き、忘れ物点検し、ク
ラブは持ったまま次のティーグ
ランドまで行ってクラブを入れ
替える。
スイングする時は自分のリズム
で、後は状況判断して同伴者
や後続のプレーヤーに迷惑を掛
けないようにする事が素晴らし
いプレーヤーだと。その上でス



をかけるか
ら、打った
ら急ぐ、駄
目なら球を
持って歩
く。これが
ゴルフの最
低のマナー
だと教えて
いただいた
覚えがあ
る。
ほかには、

コアが良ければさらに良いと教
えられたことを、先輩の受け売
りで話すのである。
最初が肝心である。やがて四
～五年もすると一人前のプレー
ヤーに。教えたかいがあって嬉
しい。しかし負けると複雑な思
いがする。まだ禅の道には遠い
らしい。ゴルフスイングもスコ
アももっと上達したいが、残念
な事に年齢や病気により飛距離
が縮まり、スコアは増えてゆ
く。トホホホ…。まだまだ禅の
道にはほど遠く、せめて飛距離
が落ちないように仏様に頼むし
かないが、向うも都合があっ
て、自分の都合の良い時だけ念
じても観音様や弁才天様は忙し



く、暇なのは不動様や金剛力士
達らしい。怖くてお願いなどは
とてもできない。本来ならば怖
い不動様をお願いして、心の邪
念を振り払ってもらえば良いの
かと思う。
円福寺の花園会コンペのス
タートの挨拶で住職に禅の修行
項目六つあるうちの一つでも説
いていただき、その話しによっ
てプレイがなお楽しい一日であ
るようお願いしてみたい。時
間がなければ、チラシでも良い
のではないかと思ったりする。
(次号に続く)



第24回

禅童会



いつ：平成28年7月24日(日)
 どこで：市原市武士868
 圓福寺市原別院「耕雲寺」

坐禅



昨年中止を余儀なくされた「禅童会」でしたが、今年、別院「耕雲寺」に場所を移して開催することができました。慣れない不慣れた場所での開催にもかかわらず、お手伝いくださったみなさんには本当にありがとうございました。

例年のように、子どもたちの感想文をご紹介します。

「禅童会」

みつわ台南小五年 高橋 泉



茶道体験

今日は、幼稚園の禅童会に参加しました。坐禅をしたり齋座のマナーを教えてもらいました。坐禅は、始めは、足はいたくなかったけどだんだんいたくなってきました。齋座では、家とはちがってしゃべったり音をたててはいけなくてびっくりしました。あと自分で使うしよっきは、お湯とつけものであらうのがすごくびっくりました。最初は、ちょっと、つけものであらうのかと思ってちょっと心配しました。けどやってみたら少し楽しかったです。茶道やスイカわりをしました。茶道で



いなのを作りました。私はぐう数でした。いろいろと周りから声がかきこえたけどチームのありちゃんの声だけ信じました。あと少しのところであたりそうだったけど、はずしちやいました。今日、一日とっても楽しかったです。またあるなら行きたいです。



はなおみ先生に教えてもらいました。とってもおいしかったです。スイカわりでは、ぐう数と数にわかれてチームみ

「禅童会に参加して」

千草台東小四年 内田 さくら

私は、この禅童会に参加して色々なことをあらためて知りました。最初に、園長先生の話の聞きました。そこで本当に大切なことを一つ知りました。その言葉は、「あなたたちは大切な命、何億文のいくつかの本当に大切な命を持ってているんだよ。」という言葉です。私は、その言葉を聞いて、（これからもずっとずっと、一生この命を大切にしよう。）と深く心に感じました。その後、坐禅を10分くらいやって、十時三十分から、じゃがいも掘りと草取りをやりました。おじさん達が大きなシャベル？などでほってくれたのを土から出して袋に入れていきました。次に、たくさん草をがんばって取りました。と五分から、昼食を取りました。

まず、作法の説明を聞きまし
た。一時から、二回目の坐禅を
やって、その時は足がしびれ、
せなかがとてもいたくなりまし
た。二時からは、茶道体験をし
ました。すわり方、れいの仕方
などを教えてもらいました。そ
れからおかしのもらい方と食べ
方を教えてもらって、おかしを
食べました。お茶も飲みまし
た。三時から、スイカ割りをし
ました。目をタオルでかくして
同じチームの子の声を聞いて
すいかの位置までたどりつきま
した。あたっていただけわなくて
くやしかったです。色々なこと
を体験して、色々なことをたく
さん知れて
よかったです
す。また来
年行ければ
行きたい
です。



「禅童会に思う事」

高橋 敏勝

今年で24回にもなるので、私は今、六十五歳です。で、四十一歳の頃に始まったこの禅童会、私の倅や娘たちもご厄介になりました。



じゃがいもは、お金を出したら買えるけど、自分で収穫したじゃがいもの味は特別です。自分で育てたじゃがいもなら、もっとおいしく感じます。

その間、童子達を何度も何度もお世話して来ましたが、その禅童会の道場も去年、焼失してしまい、今年は自然いっぱい、市原耕雲寺に場所を移しての禅童会でした。

お寺が焼けてしまう。ほとけ様と一番ご縁の強いお寺が焼けてしまった。一時は、なんと罰当たりなお寺なんだろう、きっと仏罰かも知れない、なんて事も頭をよぎりました。

しかし、よくよく考えれば、ほとけ様、つまりお釈迦様は、『この世の中に永遠に続くものは無いのだよ』つまり、難しく言えば『諸行無常』と悟られ、その事を広く私たちのために説いて下されたものなのです。だから、一つの事や物に拘り続けるでなく、形のあるものはやがては消え行くのだからという、ものの根本の道理を知れば、生きて行くのがほんの少し



畑の草は、薬をまいたら生えなくなりますが、それでは土が固くなってしまいます。土が呼吸できなくなって、かわいそうだね。さあ、汗を流して草とりだ！

楽になる。そう言うほとけ様の根本的な考えを円福寺と言う建物を焼いて示されたのではなかろうかと、思いました。と、考えるならば、お寺の建物はもとより、仏像や仏具、果ては和尚さんたちの色々な財産まで焼いて、ほとけ様の根本の考え方を身で示されたとても有難いお寺が円福寺ではなかろうかと理解できたのであります。

飲んでもらう人のことを思っ、一生懸命お茶をたてます。それを「おもてなし」って言うんだよ。



会を急遽市原で実施することが出来た訳です。

この市原の耕雲寺、我々大人の坐禅会でもお借りして、毎週木曜日にするのですが、春の夕暮れはウグイスの声が聞こえ、それが夕闇と共に山に帰って行く。と次に次第にカエルの声が段々聞こえてくるようになる。遠くを走る小湊線の列車の走る音とか、あとはたまに車の走る音とか。その、オケラの合唱も忘れてはなりません。そんなものしか聞こえない、多分全国ど

話が飛んで申し訳ありません。で、話を戻してみれば、あの千葉の円福寺が無くなったので、禅童

この坐禅の道場よりも断然に良い環境なのが、この市原耕雲寺なのです。こんな、素晴らしい環境の中で坐禅が出来るなんて、本当に千葉の円福寺が燃えて無くなってくれたからこそなのです。

と、言う環境の中で、子供たちも必死に見よう見まねの座禅を体験しました。終始、落ち着かぬ子や、神妙な子や、やんちゃ坊主や、おませなお姉さんも、見よう見まねの坐禅会、禅童会でした。

今は、ただ、「坐禅をやったよ。」って体験だけなのでしようが、やがて自我も芽生え物事を深く考えるようになった頃、もしかしたら、また坐禅をやってみようと思いつきかけになるのだらうと思います。

また、坐禅を通して、きつとお釈迦様が説いた仏教の基本の教えにも触れるきっかけになるでしょう。その教えがやがて、人生で困った時寂しい時悲しい

時の道しるべとなるものと思います。

今は、足が痛いよ、とか棒で叩かれたよ、とかの思い出だけでしようが、やがてそう言う風に、ほとけさまの教えに触れる機会を得る事と、またそれにより、幸せな人生が歩めるかも知れない、そうした体験のお手伝いが出来た事に感謝感謝であります。



耕雲寺本堂前で記念撮影

(十一月の「園だより」から)
まねぶ子どもたち

近年、この時期になるとハロウィンなるものが話題になるのが風物詩になってきました。もともとはキリスト教の万聖節という行事の前夜祭なのだそうで、日本のお盆のヨーロッパ版といったところでしょうか。クリスマス同様、外国の行事を真似したものです。

日本人は「まね」が得意だとかよく言われますが、「まねる」は「学ぶ」の語源であるとも言われ、「学ぶ」を「まねぶ」と読む古語もあるそうです。



話は前後しますが、先日、雨のために延期になった運動会を無事終えることができました。延期になったおかげで、子どもたちはお母さんのごちそうお弁当を2回も食べる事ができて喜んだかもしれません。遠くから応援にかけつ

けるおじいちゃん、おばあちゃん、2回もお孫さんに会える機会ができて、これまたうれしかったのではないのでしょうか。



HeiClueZ

運動会は、日ごろの活動の集大成という事を申し上げますので、終わってからおしまいでなく、終わってからも運動会の絵を描

いたり、遊びの中でリレーごっこをしたりと、余韻を楽しむ子どもたちの姿を見ることが出来ます。先日、園庭に置かれていたパラバールンに、子どもたちが群がっていました。よく見ると、カラー帽子の色が違います。群がっていたのは、年少の子どもたちでした。年中さんの姿にあこがれて、真似てみようと思ったのでしよう。でも、なかなかみんなの気持ちさまとまらずに、大きく広げることさえままならない様子でした。する

と、気を利かせた先生が、運動会のバラバルーンの曲を流してくれました。その途端、曲に合わせてバラバルーンをみんなで広げたり、片手でバラバルーンを握って右に左にステップを踏み始めました。なんと、年中さんの演技の完全コピーを年少さんがやっているのです。誰に教えられるでもなく、よく見ていて真似ることができていた姿を見て、真似るは学ぶの語源なんだということを実感しました。同時に、よく見られているんだなと、背筋を伸ばさなければと思うのでした。

運動会の後は、「秋たんけん」でした。縦割り保育で出かけることで、まねぶ子どもたちはお芋ほりも上手にできましたし、森のたんけん、どんぐり拾いなど、たくさん秋の学びを収穫したようです。私のご飯炊きも、誰かまねぶ人はいないかなあ・・・。



平成二十九年年回表

回数	亡くなった年
一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

法要の会場として、境内入口の「大師堂」が使用できます。お参りの方はすべて椅子席で、十四～十五名ほど着席できます。お気軽にご相談ください。

写経会

般若心経を写経いたします。大きめな字でお手本が印刷された、とても書きやすい写経用紙を使用しています。お道具の準備から毛筆の基礎なども親切にご指導いたします。

【前期期日】

- 二月五日
- 三月五日
- 四月二日
- 五月十四日
- 六月四日

【後期期日】

- 七月二日
- 八月六日
- 九月三日
- 十月一日
- 十一月五日

【時間】 午前十時～十二時

【会費】

- 一期五回で、花園会員三千円
- 会員外 五千円

【講師】

齊藤 加代子先生・住職

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。



土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、各種体験などをしながら懇親・談笑する自由空間です。たくさんのが縁が広がります。

【期日】

- 一月二十一日 花園会新年会
- 二月二十五日 歩禅会
- 三月(未定) 春彼岸法話会
- 四月十五日 (未定)
- 五月(未定) 市原ボラントラ
- 六月十七日 仏教シアター
- 七月二十三日 禅童会お手伝い
- 八月二十六日 地藏盆お手伝い
- 九月十六日
- 〃十七日 歩禅会

【会費】テーマイベントの後、懇親会

- 花園会員 男性 二千円
- 女性 千円
- 花園会員外 男性 三千円
- 女性 千円

【申込】

詳細は、行事ごとにご案内いたしますので、奮ってご参加ください。

平成二十八年下半年
お寺と和尚の記録抄

7月	16日～17日	幼稚園 お泊り保育
	24日	第二十四回「禅董会」
	26日	加監再建設打ち合わせ
	28日	スマートフォン「写経講座」
	29日	東京教区第七部内会
8月	3日	月例役員会
	6日	幼稚園 市原ボランティア「Q園隊」
	7日	写経会
	8日	スマートフォン「写経講座」
	9日～16日	8月益棚経
	14日	佐倉報恩寺施餓鬼会
	15日	佐倉宝樹院施餓鬼会
	16日	佐倉円心寺施餓鬼会
	17日	四街道清久寺施餓鬼会
	18日	取手長禅寺施餓鬼会、法話
	24日	佐倉円通寺施餓鬼会
	26日～28日	学習院ボーイスカウト合宿 於耕雲寺
	27日	地藏盆
9月	1日	駒込勝林寺先住職一周忌
	2日	月例役員会
	3日	幼稚園 市原ボランティア「Q園隊」
	4日	写経会
	8日	スマートフォン「写経講座」
	10日	三巡目四国あるき遍路説明会
	11日～13日	幼稚園 職員研修 於長崎
	22日	スマートフォン「写経講座」
	23日	役員会
10月	2日	写経会
10月	3日	加監再建設打ち合わせ
	7日	月例役員会
	12日	幼稚園 遠慮忌
	13日	スマートフォン「写経講座」
	15日	幼稚園 願書配布
	16日	稲毛区区民まつり
	18日	第四十一回花園会ゴルフ大会
	21日	スマートフォン「写経講座」
	22日	幼稚園運動会
	23日	涅槃精舎毎歳法要・布薩会
	28日	土曜会 涅槃寄席 瀧川鯉昇師匠
11月	1日	幼稚園 全園児「市原秋だんけん」
	4日	幼稚園 入園手続き
	6日	月例役員会
	10日	写経会
	14日	スマートフォン「写経講座」
	16日	加監再建設打ち合わせ
	18日～20日	東京教区第七部内研修会 於円心寺
	26日	三巡目第一回四国あるき遍路の旅
	29日	市原別院耕雲寺収穫祭
12月	1日～3日	加監再建設打ち合わせ
	8日	月例役員会、役員研修 於宮城・岩手
	10日～11日	スマートフォン「写経講座」
	13日	幼稚園 「おせらい会」
	15日	幼稚園 成道会
	17日	幼稚園 もちつき
	19日	土曜会 歳末ボランティア大掃除
	31日	スマートフォン「写経講座」

参加者募集 約20名

第2回 四国あるき遍路の旅

3巡目

【日程】二月十七日(金)～十九日(日)

【旅程】飛行機にて徳島へ。電車で十八番近くまで移動して、十八・十九と歩き。その後電車を乗り継ぎ十一番で、近くのへんろ宿。二日目早朝出発して、十二番をお参りして、バス・電車を乗り継ぎ、小松島泊。三日目はバスで二十番の麓まで移動、その後歩き。二十一番からはロープウェイで下山、帰路に就く。三日間で約四十kmを歩く予定。

【参加費】約五～六万円を予定

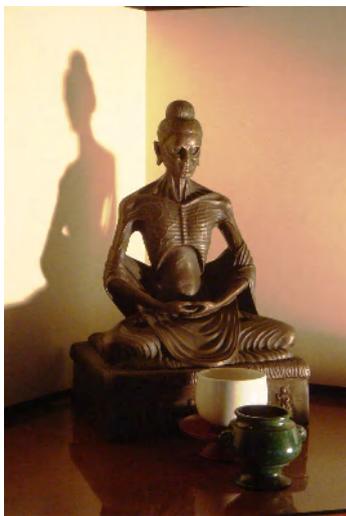
【申込】お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。

第二回は、昔から「一に焼山、二にお鶴、三に太龍」と言われる徳島の難所十二番焼山寺、二十番鶴林寺、二十一番太龍寺を一気に歩く予定です。

平成二十九年
年間行事予定

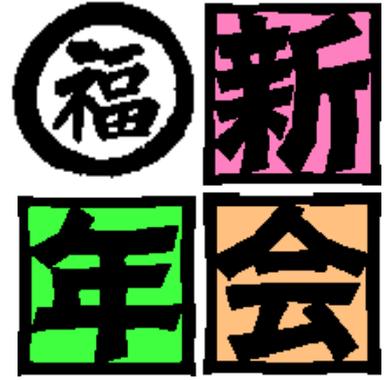
5月	4月	3月	2月	1月
18日	8日	24日～26日 17日～23日	17日～19日	1日～3日
第四十二回 花園会ゴルフ大会	降誕会(花まつり)	冬の寺子屋 和尚と滑ろうin苗場 春彼岸	三巡目の第二回 四国あるき遍路の旅	新年修正会
			お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃図の掛け軸を掛けて法要をします。	仏教興隆・国家安泰・五穀豊穣・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。
			涅槃会	二十四ページのご案内をご覧ください。
				21日 花園会新年会

10月	8月	7月
25日	26日	9日
第四十三回 花園会ゴルフ大会	地藏盆	山門大施餓鬼会
禅宗初祖「達磨大師」の「命日」。	子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店や野点・ゲーム大会などで盛り上がる夜祭りです。併せて、地藏盆の法要で水子・ペット・人形供養も行います。	この日は、初盆のほとけさまはじめ檀信徒各家のほとけさまの施餓鬼会をいたします。あらためてご案内を差し上げます。
	9日～16日 八月盆の棚経	11日～16日 七月盆の棚経
	八月盆のお宅に棚経にお伺い致します。	七月盆のお宅に棚経にお伺い致します。
		23日 圓福寺寺子屋「禅童会」



釈迦苦行像【圓福寺蔵だったが、焼失】

12月	11月	10月
16日	8日	22日
歳末ボランテラ 花園会忘年会	成道会	涅槃精舎毎歳法要
お釈迦様がお悟りを開かれた日です。	17日～19日 三巡目の第三回 四国あるき遍路の旅	永代供養の方々の法要と、生前戒名のお授戒をする「布薩会」を併修。
		22日 土曜会「涅槃寄席」
		市原別院収穫祭



——圓福寺では、毎年、和やかな楽しい新年会をしています。たくさんのお越しをお待ちしております。

圓福寺とご縁のあるみなさんは、千葉という地域柄、全国各地のご出身の方がほとんどです。北は北海道、南は九州沖縄までという決まり文句の通りです。

石川啄木がふるさとの訛りを上野駅に聞きに行きましたが、圓福寺の新年会に来れば、全国のお国言葉を聞くこともできます。

どうぞ、お気軽にお寺の新年会にお出かけ下さい。



定

- 一、彼岸とお盆にしかお寺に来ない人。
 - 一、お寺はかたくるしい所だと思っている人。
 - 一、仏教や禅に興味のある人。
 - 一、お酒の好きな人。
 - 一、おいしいものが好きな人。
 - 一、圓福寺のお守りが欲しい人。
 - 一、当日時間のある人。
 - 一、今年一年の愚事を願う人。
 - 一、一回出席してみても楽しかった人。
- 右のうち、一つでも該当する人は参加することができます。

圓福寺花園会

平成29年
西暦2017年
仏暦2560年



圓福寺花園会

- 河西達雄
- 福田和夫
- 平山 実
- 塩月高泰
- 菅野光夫
- 稲田陽英
- 高橋敏勝

圓福寺住職

宮田宗格

日時 一月二十一日(土)

午前十一時 新春ご祈禱

正午 新年懇親会

場所 幼稚園二階ホール

(スリッパをご持参下さい。)

会費 三千円

(ご祈禱料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。)

会費は当日受付です。

申込 電話・ファックス・メール

などで、お寺までご連絡下さい。